

# 1 連結業績概要 (① 前期比)

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	当期	前期	増減	増減率	特記事項
売上高	1,540.6	1,674.1	△133.5	△8.0%	<売上> 日本国内は下期中心に建材向けめっき鋼板の販売量減少。 海外は台湾SYSCO社で輸出減少。 新型コロナウイルス感染症の影響は軽微
(売上総利益)	225.2	232.3	△7.1		
(販管費)	170.3	173.5	△3.2		
営業利益	54.8	58.7	△3.9	△6.6%	<営業利益> 減収ながら原材料・エネルギーコスト等負担減。 YSS社・PPT社改善もあり減益幅は抑制 <営業外収益> 投資有価証券売却益減少、運用商品損失等
(営業外収益)	30.3	42.9	△12.5		
(営業外費用)	10.9	3.4	7.5		
経常利益	74.2	98.2	△24.0	△24.5%	<特別損失> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う株式市場悪化で投資有価証券評価損計上。 災害損失は減少
(特別利益)	2.9	0.8	2.0		
(特別損失)	22.1	7.5	14.5		
税引前利益	55.0	91.6	△36.5	△39.9%	
(法人税等)	20.1	26.6	△6.4		
(非支配株主利益)	△3.7	2.4	△6.1		
親会社株主利益	38.6	62.5	△23.9	△38.2%	<包括利益> 当期: 当期純利益 34億、その他有価証券評価差額金△16億、為替換算調整勘定 2億ほか
(EPS(円/株))	131.14円	211.08円	△79.94円		
当期包括利益	21.1	5.9	15.2		

# 2 連結業績概要 (② 予想比)

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

連結 (億円)	実績	予想 (2020年2月開示)	差異
売上高	1540.6	1550.0	▲9.3
営業利益	54.8	52.0	2.8
経常利益	74.2	69.0	5.2
親会社株主利益	38.6	44.0	▲5.3

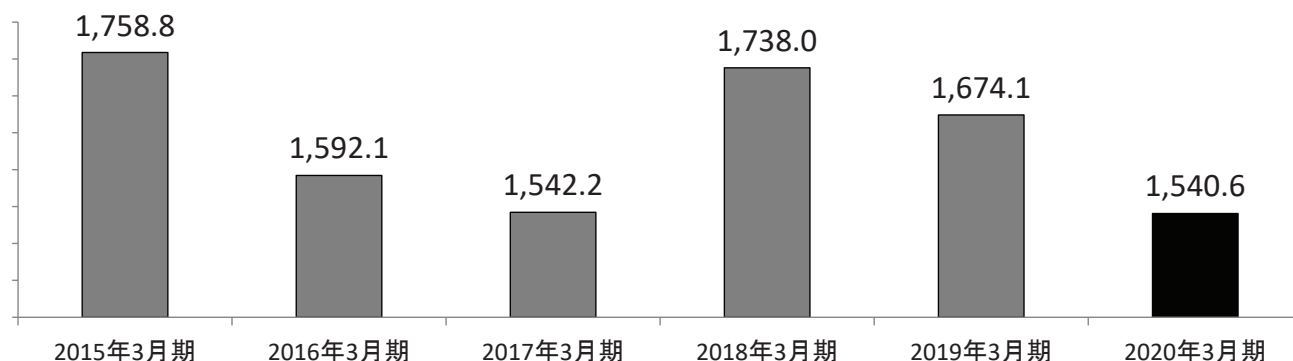
## 【差異要因】

- ・ 営業利益：原材料コストを保守的に予想していた
- ・ 経常利益：4Qに保有していた投資有価証券の一部を売却（淀鋼）
- ・ 親会社株主利益：株式市場悪化で投資有価証券評価損計上

### 3 連結売上推移

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))



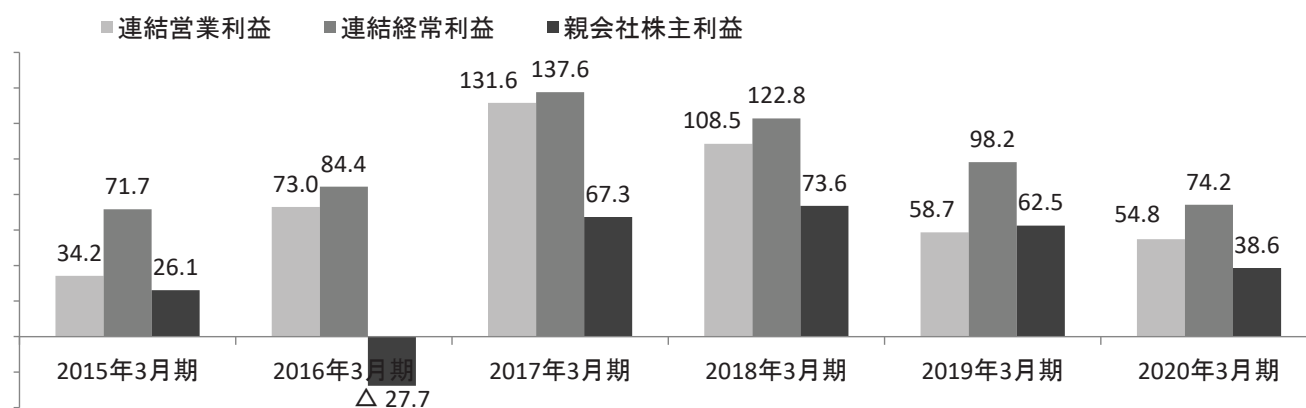
#### 【減収△133億の主な内訳】

- ・ 淀鋼：△77億（1,103→1,026）下期を中心に販売減少
- ・ 台湾SYSCO社：△59億（396→336）輸出で販売量減少
- ・ 中国YSS社：△2億（68→65）現地通貨では微増収
- ・ タイPPT社：△0.1億（36→36）

### 4 連結損益推移

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))



#### 【営業利益△3.9億減益の主な内訳】

- ・ 淀鋼△3.9億（63.3→59.4）売上減なるも原材料、エネルギー、固定費等の負担減でマージンは確保。在庫評価の効果が逆転（前期：押し上げ／当期：押し下げ）
- ・ SYSCO社△2.1億（3.9→1.7）引き続き北米向け輸出の減少で苦戦
- ・ YSS社+1.9億（△9.9→△7.9）採算の良いカラー鋼板の販売が伸長
- ・ PPT社+2.1億（△4.7→△2.6）高付加価値品の販売量が伸長。コストダウン効果も。

# 5 セグメント概況

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	売上高			セグメント利益		
	当期	前期	増減率	当期	前期	増減率
鋼板関連	1,424.1	1,551.2	△8.2%	58.9	60.5	△2.5%
ロール	28.3	35.0	△19.1%	△3.1	△0.7	—
グレーチング	34.8	35.5	△2.0%	0.8	0.8	△4.5%
不動産	12.0	11.8	1.9%	8.4	8.3	2.1%
報告セグメント計	1,499.3	1,633.6	△8.2%	65.1	68.8	△5.4%
その他	41.2	40.5	1.7%	1.8	2.4	△24.0%
合計	1,540.6	1,674.1	△8.0%	67.0	71.3	△6.1%
調整額				△12.1	△12.5	—
PL計上額	1,540.6	1,674.1	△8.0%	54.8	58.7	△6.6%

# 6 連結財政状態概要

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	当期末	前期末	増減	増減率	特記事項
総資産	2,011.2	2,094.6	△83.3	△4.0%	<資産> (流動) 営業債権減少 (固定) 投資有価証券評価減少 など
(流動資産)	1,165.5	1,207.5	△42.0	△3.5%	
(固定資産)	845.7	887.0	△41.3	△4.7%	
負債	338.3	417.9	△79.5	△19.0%	<負債> (流動) 営業債務減少 (固定) 長期繰延税金負債減少 など
(流動負債)	195.0	271.6	△76.5	△28.2%	
(固定負債)	143.2	146.2	△3.0	△2.1%	
純資産	1,672.9	1,676.7	△3.8	△0.2%	<株主資本> 純利益38億、配当△20億、自己株取得△3億 など  <その他包括利益累計額> 有価証券評価差額金△17億など
(株主資本)	1,370.1	1,355.0	15.0	1.1%	
(その他包括利益累計)	130.2	147.3	△17.0	△11.6%	
(非支配株主持分)	170.2	172.2	△1.9	△1.1%	
(BPS(円/株))	5,115.92円	5,096.96円	18.96円		
自己資本	1,500.3	1,502.3	△1.9	△0.1%	
自己資本比率	74.6%	71.7%	2.9pt		

## 7 連結CF概要

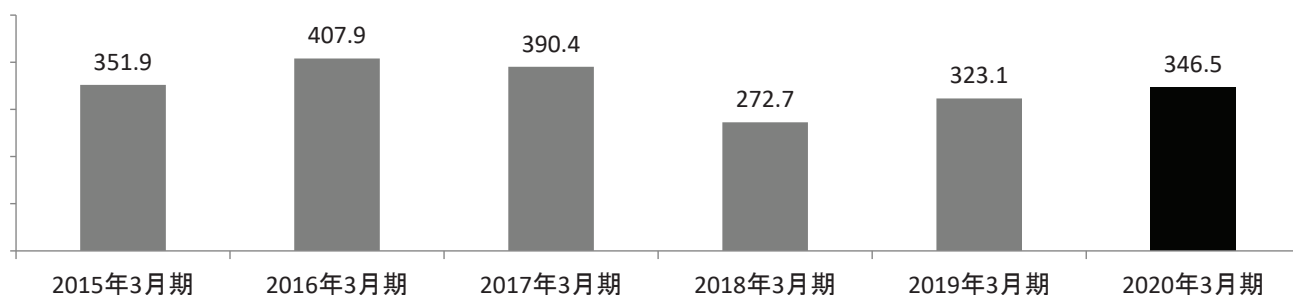
株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

	当期	前期	前期比		特記事項 (記載金額は概略値)
			増減	増減率	
営業CF	59.2	82.7	△23.4	△28.4%	営業利益の減少など
投資CF	△14.0	12.3	△26.3	—	投資有価証券の売却・償還減など
財務CF	△22.6	△39.7	17.1	—	当期: 配当△22億、自己株取得△2.9億、短期借入増 2.8億など
現金及び同等物	346.5	323.1	23.4	7.2%	

(単位: 億円)

### 現金同等物残高



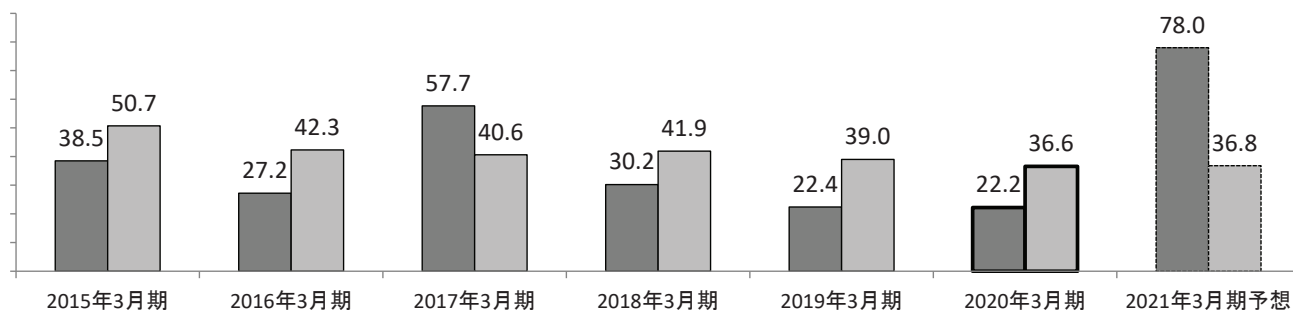
## 8 設備投資と減価償却

株式会社 淀川製鋼所

(有形固定資産のみ。建設仮勘定を含む資産計上ベース。単位:億円(千万円未満切捨))

	当期	前期	前期比		特記事項 (記載金額は概略値)
			増減	増減率	
設備投資(連結)	22.2	22.4	△0.1	△0.7%	保守・更新主体
減価償却(連結)	36.6	39.0	△2.4	△6.3%	大きな変動なし
設備投資(個別)	12.4	14.1	△1.6	△12.0%	保守・更新主体
減価償却(個別)	20.9	23.4	△2.5	△10.8%	大きな変動なし

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



## 9 連結設備投資概要

株式会社 淀川製鋼所

(単位:億円(千万円未満切捨))

	会社	案件	完成年月	総投資額 (資産計上ベース)
当期実施	淀鋼	圧延ライン電機品更新(市川市)	2019年9月	1.3
	淀鋼	第2ビルエレベーター更新(大阪市)	2019年9月	1.8
今後予定	淀鋼	柏井社宅建替(市川市)	2021年12月	27.0
	淀鋼	市川工場事務所棟建替(市川市)	2021年5月	9.7
	SYSCO社	1号カラーライン改造(台湾・高雄市)	2020年5月	94百万NTD (約3.4)
	福井ヨドコウ	新工場建設(坂井市)	2022年9月 (生産ラインの一部)	76.0

## 10 連結業績予想

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 億円(千万円未満切捨))

2021年3月期 (令和3年3月期)		第2四半期	当期比増減	通期	当期比増減
連結	売上高				
	営業利益				
	経常利益				
	親会社株主利益				
個別	売上高				
	営業利益				
	経常利益				
	純利益				

現時点で合理的に算定することが困難であることから  
開示しておりません

算定が可能となりました時点で速やかに開示いたします

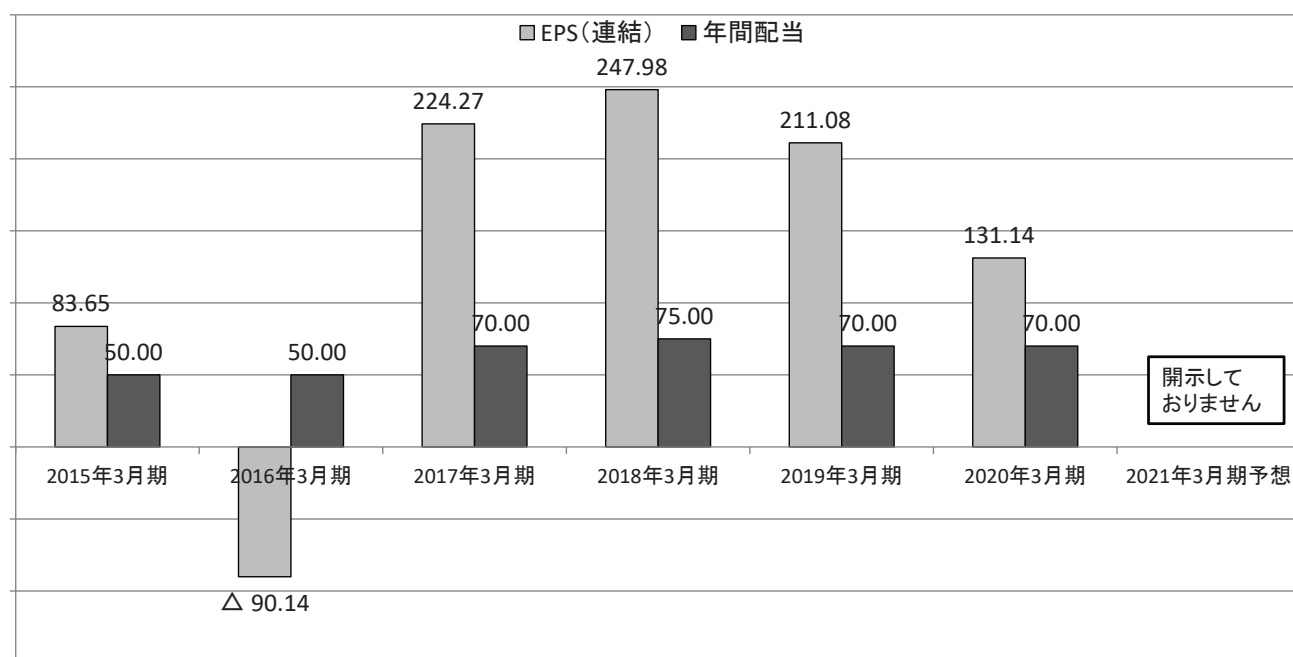
- 世界各地域における新型コロナウイルス感染症拡大防止措置は世界的マクロ経済と当社グループの経営環境に相当の影響を及ぼすことは確実ですが、その具体的程度は現時点で極めて不透明です。

## 11 配当

株式会社 淀川製鋼所

(単位: 円/株)

(2016年3月期以前の数値は株式併合後の数値に調整)



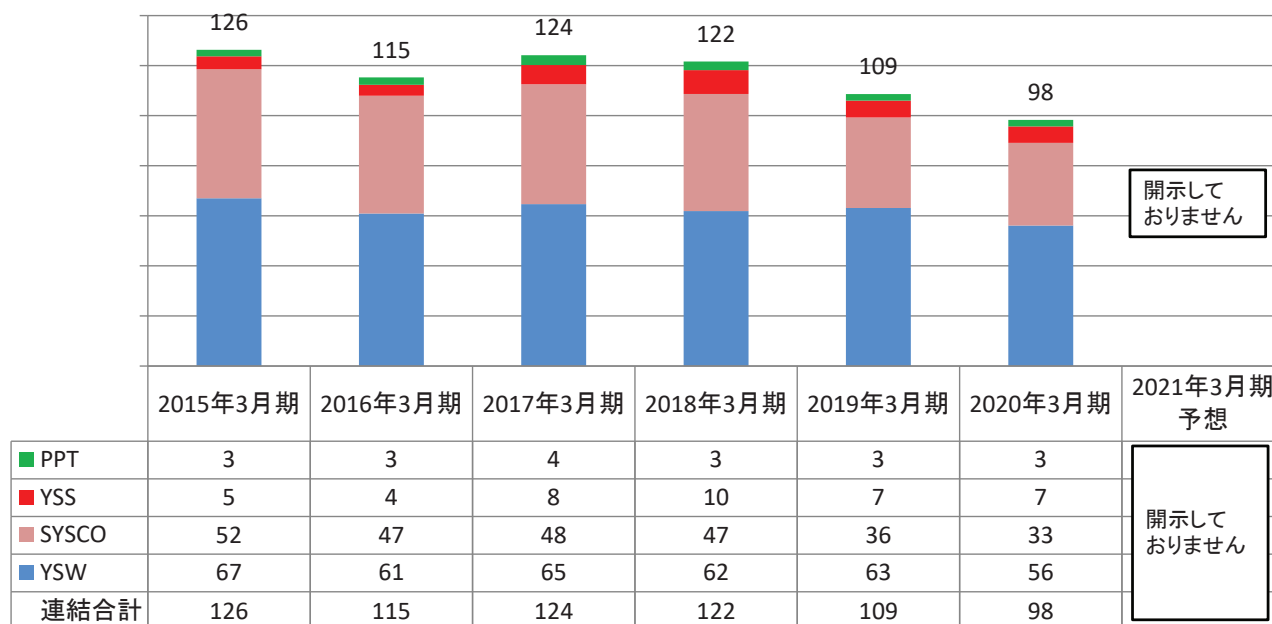
- 通期の配当予想については、合理的な算定による業績予想が開示可能となった時点で、速やかに開示いたします。

## 12 セグメント概況 (鋼板関連事業⑥)

株式会社 淀川製鋼所

【鋼板商品の一級販売量推移】連結消去は考慮せず

(単位: 万トン)



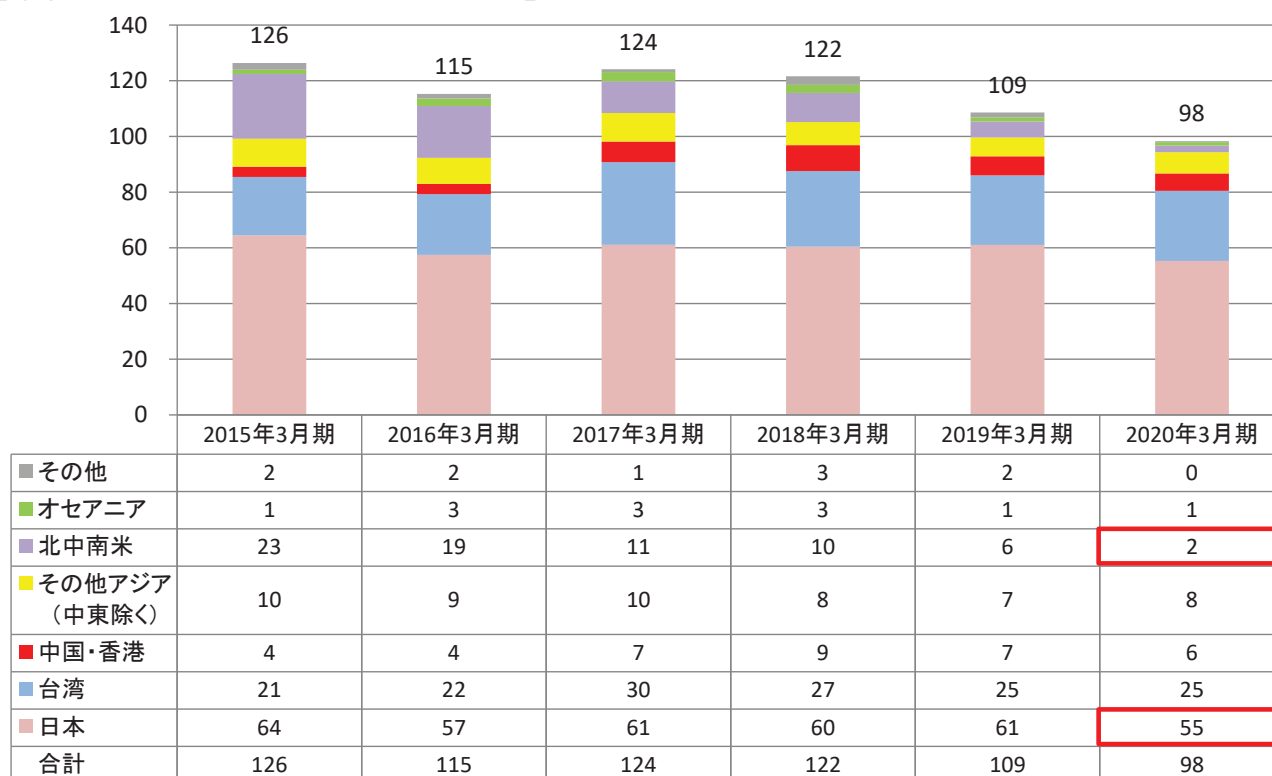
- ・ 4社合計で 10.3万トンの減少
- ・ 淀鋼△7.0万トン (主に建材向けめっき鋼板が減少)
- ・ SYSCO社△3.0万トン (輸出が減少)

## 13 セグメント概況 (鋼板関連事業⑦)

株式会社 淀川製鋼所

【鋼板商品の向先別一級販売量推移】連結消去は考慮せず

(単位: 万トン)



## 14 その他トピックス

株式会社 淀川製鋼所

### 【エクステリア商品に係る生産・物流体制の再構築】

- ・ エクステリア商品に対するお客様の多様化するニーズに応じてゆくため、現在大阪工場で生産しているエクステリア商品の一部につき、当社福井事業所の遊休地にその生産機能を移転し、生産と物流体制の一新を図る。
- ・ 大阪工場から移転するエクステリア商品の生産は、2020年4月1日に新たに設立した「福井ヨドコウ株式会社」が担当。

## 15 その他トピックス

株式会社 淀川製鋼所

### 【福井に生産の移転を予定しているエクステリア商品】



ヨド物置エスモ



ヨド自転車置場



ヨド倉庫



ヨド大型倉庫



ダストピットFタイプ



ダストピットFWタイプ



ダストピットHタイプ

## 16 その他トピックス

株式会社 淀川製鋼所

## 【福井ヨドコウの概要】

商号	福井ヨドコウ株式会社
所在地	福井県坂井市三国町新保テクノポート (生産工場は当社福井事業所遊休地に建設)
代表者	代表取締役社長 中野要一郎 (当社常務執行役員)
事業内容	エクステリア商品の製造・加工ほか
資本金	1 億円 (当社100%出資)
設立年月日	2020年4月1日
対象商品	ヨド物置エスモ ヨド自転車置場 ヨド倉庫 ヨド大型倉庫 ゴミ収集庫ダストピット (Fタイプ、FWタイプ、Hタイプ)
予定投資額	約76億円 (建築関係31億円、設備関係45億円)
予定スケジュール	2020年 6月着工 (建築関係の一部) 2021年10月稼働 (設備関係の一部)

## I

## 中期経営計画2019の振り返り

## I

## 中期経営計画2019の振り返り

## ■ 中期経営目標に対する結果

原材料・エネルギーコストの上昇、海外鉄鋼市場における保護主義的政策や米中貿易摩擦等により、初年度を除いて目標未達。

中期経営計画2019	2017年度	2018年度	2019年度
目 標	<b>連結経常利益100億円を安定計上</b> (市況・為替など事業環境に左右されず、安定して計上できる実力)		
実 績	122億円	98億円	74億円
差 異	+22億円	▲1億円	▲25億円

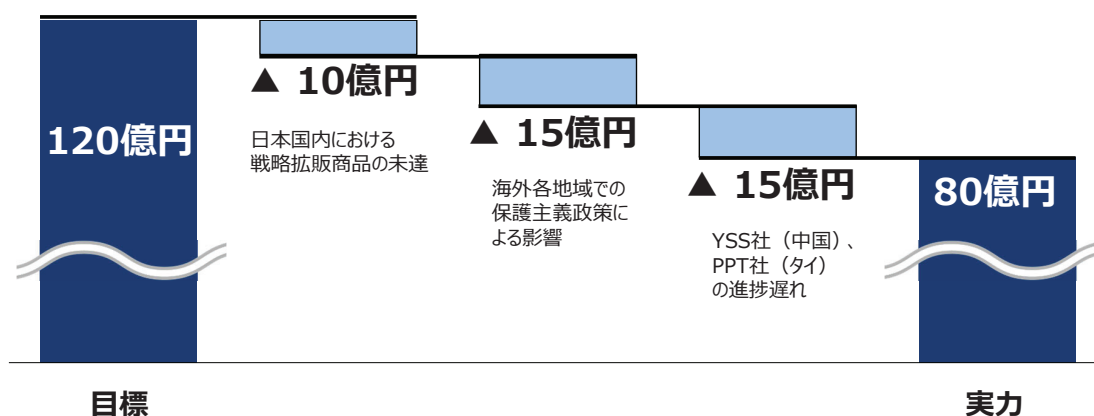
## I 中期経営計画2019の振り返り

### ■ 中期経営目標の未達要因

連結経常利益から一過性要因（在庫評価影響、金融商品売却損益、為替影響等）を除く2019年度末時点の実力値は約80億円と分析。

連結経常利益100億円を安定計上するためには、実力値で約120億円が必要。

#### ▶▶ 未達要因



## I 中期経営計画2019の振り返り

### ■ 主要施策に対する成果

▶ A 強靱な収益構造の確立	▶ B 新しい事業領域への挑戦
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新用途分野への参入や新しい販売チャネルの開拓</li> <li>■ 既存技術の応用によるニッチ分野への参入</li> <li>■ 高機能外装材やエクステリア新商品の発売、高機能鋼板の受注開始</li> <li>■ 外装材生産設備の増強</li> <li>■ 海外事業会社間の協働による受注</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エクステリアと建材の技術を足掛かりとする新規事業企画に向けた情報収集</li> <li>■ 新事業を検討する専属部署を設置</li> </ul>
▶ C 強固な経営基盤の構築	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株主還元として安定配当</li> <li>■ ガバナンス強化として社外取締役を3名体制</li> <li>■ ダイバーシティ実現に向けて女性社外監査役を選任</li> <li>■ 基幹生産設備のリニューアル構想に着手</li> </ul>	

## Ⅱ

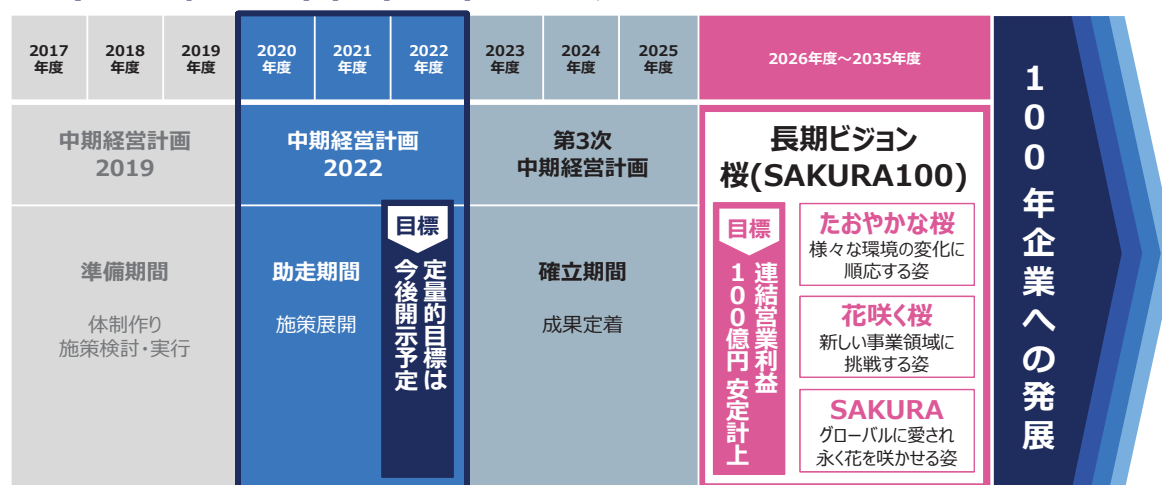
# 淀川製鋼グループ 中期経営計画2022

(2020年度～2022年度)

## Ⅱ

# 淀川製鋼グループ 中期経営計画2022

### ■ 本中期経営計画期間の位置付け



## Ⅱ 淀川製鋼グループ 中期経営計画2022

### ■ 基本戦略

前中期経営計画の主要施策に対する成果を基礎として、以下の6項目を基本戦略とし、長期ビジョンの達成に向けた施策展開に重点を置く。

<p>➤ A 機動力を活かした収益構造の強靱化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビジネスモデルの深化</li> <li>■ ものづくり力の底上げ</li> </ul>	<p>➤ B 新しい分野への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 既存事業を基盤とした新分野の開拓</li> </ul>
<p>➤ C 持続可能な経営基盤の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 将来を見据えた積極的投資と資本効率向上</li> <li>■ 次世代を担う人材の育成と組織力強化</li> <li>■ 全てのステークホルダーとの共生</li> </ul>	

## Ⅱ 淀川製鋼グループ 中期経営計画2022

- 2020年初の中国武漢市での流行に端を発した新型コロナウイルス感染症は、その後世界的な大流行に至り、日本を含む感染拡大国において出入国制限や都市封鎖、市民の外出制限または自粛要請などが行われ、企業活動のみならず市民の日常生活に大きな制約が発生。
- これらの感染拡大防止措置は世界的なマクロ経済と当社グループの経営環境に相当の影響を及ぼすことは確実だが、その影響の具体的な程度については2020年5月現在で不透明。
- この状況を鑑み、中期経営計画2022における定量的目標を現時点で未定といたします。  
業績・株主還元・設備投資などの定量的目標については、新型コロナウイルス感染症による当社グループの経営環境への影響の程度が明らかになった時点で、改めて開示いたします。

## Ⅲ

## 長期ビジョン

## ■ 桜 (SAKURA) 100

2025年の当社創立90周年に向けて、更には100年企業への発展を見据えて、当社のシンボルマークである桜のように、持続的に成長いたします。

淀川製鋼グループ長期ビジョン



たおやかな桜	花咲く桜	SAKURA
<p>様々な環境の変化に たおやかに順応し、 様々な個性を持つ 桜のような姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機動力（即応性・順応性）の発揮</li> <li>● ニーズに応える商品・サービス、 新しい機能の提供</li> <li>● 安定した収益構造の確立</li> </ul>	<p>毎年新しい花を 咲かせる桜のように、 新しい事業領域に 挑戦しつづける姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々な分野で事業領域を拡大して きた伝統</li> <li>● 新しい事業分野の開拓に挑戦</li> <li>● 次世代を担う事業領域の確立</li> </ul>	<p>グローバルに愛され、 永く花を咲かせる SAKURAのような姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々なステークホルダーとの共生</li> <li>● 社員が自信と誇りを持てる企業</li> <li>● グローバル市場におけるブランドと ステータスの確立</li> </ul>

以上